

NPO/NGOと「持続可能な開発目標」(SDGs)



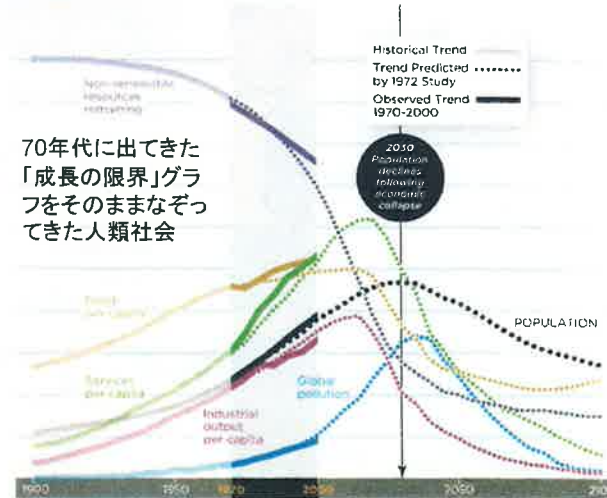
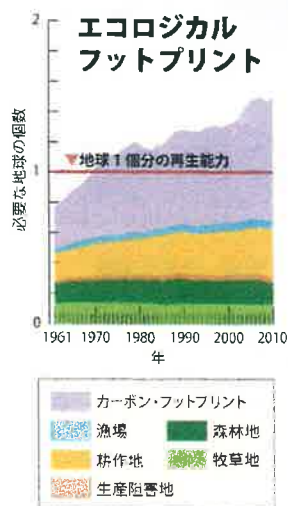
次の世代につづく世界と日本をめざして



(一社)SDGsジャパン
 稲場 雅紀
 東京都台東区東上野1-20-6
 丸幸ビル3F
 電話: 03-3834-6902
 E-mail: inaba@sdgs-japan.net

私たちは次世代に地球を引き継げるのか？

地球が再生可能な資源量の1.5倍を使う人類：終わりはいつ来る？



そこで出てきた持続可能な開発目標 (SDGs)

2015年9月、国連総会SDGs採択サミットにて、193カ国の賛成により採択。



SDGsをくふたこと>でいうと?

1. 世界から貧困をなくす。
2. 「つづかない」世界を「つづく」世界に変える。

ゴール1~6	貧困をなくす
ゴール7~11	「つづく」経済をつくる
ゴール12~15	環境を守る
ゴール16, 17	1~15を達成するしくみをつくる

<過去の目標との最大の違い>

日本を含む先進国も、実施する必要がある!!

期限は2030年。
 17ゴール、
 169ターゲット。
 そんなにたくさん?

環境・経済・社会の三要素を統合：SDGsの「17ゴール」

★あらゆる貧困をなくす

1. あらゆる場所・形態の貧困の終焉。
2. 飢餓の終焉、栄養の改善、持続可能な農業の推進。
3. あらゆる年齢の全ての人の健康な生活の確保、福祉の推進。
4. 全ての人への衡平な質の高い教育と生涯学習機会の提供。
5. 世界中の女性と少女の活躍推進、ジェンダー平等の実現。
6. 全ての人への持続可能な水の使用と衛生の保障。

★環境を守り育てる。

12. 持続可能な生産と消費の 패턴の促進。
13. 気候変動とその影響の軽減のための緊急対策の実現。
14. 海、大洋と海洋資源の保全と、持続可能な利用の促進。
15. 陸域生態系の保護と持続可能な利用促進、生物多様性の喪失の阻止。

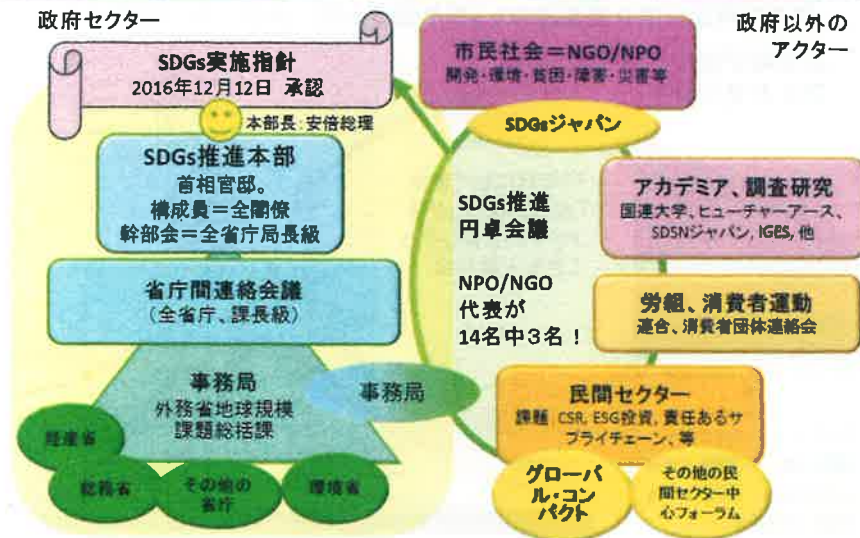
★「つづく経済」をつくる

7. 全ての人の、安価で信頼できる持続可能な現代的エネルギーの保障。
8. 包摂的で持続可能な経済成長の促進、すべての人の完全で生産的、適切な雇用の提供。
9. 強しなやかなインフラ構築、包摂的で持続可能な産業化の促進、イノベーションの拡大。
10. 国内と国家間の不平等の減少。
11. 包摂的で安全、持続可能な都市と人間居住の実現。

★ゴール1~15を実現する。

16. 平和的で包摂的な社会とすべての人の司法へのアクセスの実現、あらゆるレベルで効率的で説明責任ある能力の高い行政機構の実現。
17. 持続可能な開発への地球規模のパートナーシップの強化。

2016年度、整備された日本の取り組み体制



「本気のSDGs」をめざすためにいま、なにが課題か？

SDGsは「国際」の課題？

- SDGs推進本部の各省の担当者はみな「国際運携課」「国際課」
- 骨太方針でもSDGsは「外交」に
- 「つづく日本」をつくるための目標なのに...?

SDGsのための「予算」は？

- 「ODAはみんなSDGs」式の説明では、実感がわかない。
- SDGsを本気で実施するための「予算」が必要(例: H29年度「新しい日本のための優先課題推進枠」)

2017年国連「ハイレベル政治フォーラム」日本も発表

国連での晴れ舞台を経て2019年の「指針」見直しへ

「既存の政策の寄せ集め」をどう乗り越えるか？

- SDGs指針「付表」は既存の施策をリスト化したもの
- 「環境・社会・経済の三要素の統合」の視点から、既存の施策の組み替え・統合が必須

NPO/NPOはSDGsの「傍流」？

- 企業によるイノベーションで全ての社会課題を解決？
- 「誰も取り残さない」: 市場メカニズムで解決できない社会課題に現場で取り組んできたNPO/NGO、コミュニティの取り組みにもっと光を。

「本気のSDGs」に向けてみんなでやるべきこと

★「日本を次の世代に残す」これが「当たり前」でなくなっている現代

- SDGsを「アベノミクス」級の国家の基本政策とすること
- 「基本法」の制定
- 「真の」司令塔」と全省庁・社会セクターの連携

- 「地球の限界」=増産のみならず、格差是正が必要
- 「科学技術」と「社会・経済のイノベーション」の相乗化で初めて実現できる

★「科学技術」だけでなく、社会・経済のイノベーションが必要

★すべてのセクターの参加で進める。中でも、NPO/NGOは最大の力になる

- 既存の政策を束ねた現指針の限界、政策同士の連携のない現行の個別施策の限界を超える

- 現場で取り組むNPO/NGOがSDGs推進の最大の力になる。

- NPO/NGOを含む全セクターが政策作りの最初の段階から関与する必要

★すべての人が日本の将来に参画する「コミットメント社会」への変革

日本の持続可能性の4大課題

Poverty
貧困・格差の解消

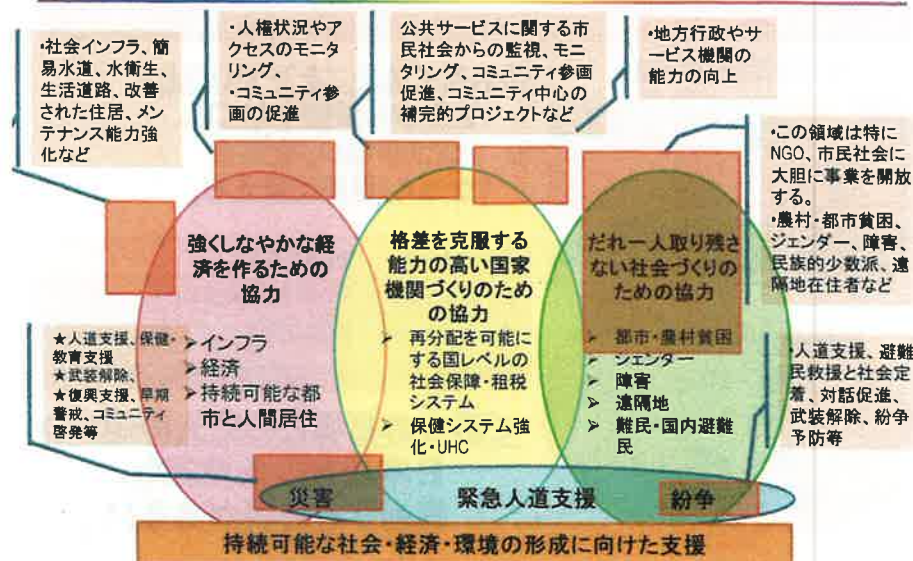
Community
地域の持続可能性の確保

Gender
ジェンダー平等の実現

Disaster
気候変動と災害

答えは、全てのセクターが参画する「コミットメント社会」に

国際協力もSDGsに即したメリハリのあるものに





JAPAN CIVIL SOCIETY
NETWORK ON
SDGs
SDGs 市民社会ネットワーク

一般社団法人「SDGs 市民社会ネットワーク」(SDGs ジャパン)とは

一般社団法人 SDGs 市民社会ネットワーク(略称:SDGs ジャパン)は、2015年9月に国連総会で採択された「持続可能な開発目標」(SDGs)の実現にとりくむNGO/NPOなど市民社会のネットワークです。目的・事業は次の通りです。

<目的>	貧困のない持続可能な世界の実現
<事業>	(1) SDGs 達成のための政策提言 (2) SDGs の広報・普及啓発 (3) 市民社会と民間企業、政府、研究機関、国際機関などとの連携の強化 (4) SDGs 達成のための調査・研究など

■SDGs (持続可能な開発目標)とは■

気候変動、生物多様性の喪失、貧困・格差の拡大…世界は「持続可能性の危機」に瀕しています。貧困のない、持続可能な世界を次世代に受け継いでいくことを目指して、2015年、世界193か国の指導者が国連に集まり、採択したのが「持続可能な開発目標」(SDGs)です。SDGsの「キモ」は以下の3つ、これだけ覚えておけば大丈夫です。

- (1) SDGsは「つづかない」世界を「つづく」世界に「変革」するための目標。
- (2) SDGsがめざす世界は、「貧困のない」「持続可能な」世界。
- (3) SDGsの対象には、日本を含む先進国も含まれる。

■SDGs ジャパンの歩み■

- 2013年~15年:SDGsづくりの多国間交渉に日本の市民の声を反映させるために「ポスト2015NGOプラットフォーム」として設立、外務省と市民社会との対話の窓口。
- 2016年4月:「SDGs 市民社会ネットワーク」として再出発。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS
世界の持続可能な開発目標



- 2016年9月：政府が設置した「SDGs推進円卓会議」に3名の委員を派遣。政府の「SDGs実施指針」策定に向けて積極的な政策提言活動を展開。12月の指針制定時には、政府、国際機関、民間セクター、アカデミアの代表と共に共同記者会見を開催。
- 2017年2月：「一般社団法人SDGs市民社会ネットワーク」(SDGsジャパン) 設立。

■SDGs ジャパンの取り組み■

提言活動	日本政府は2016年5月、総理を本部長とする「SDGs推進本部」を設立、各界を巻き込む「SDGs推進円卓会議」を設置して同年12月には「SDGs実施指針」を制定。SDGsジャパンは、様々な活動に取り組む全国のNGO/NPOの声を指針に反映すべく取り組み、大きな成果を上げています。
国際活動	SDGsジャパンは、その前身の「ポスト2015NGOプラットフォーム」の時代から、SDGsに取り組む各国の市民社会と連携してきました。アジア・アフリカのSDGs市民プラットフォームやグローバルな連携ネットワークなどともつながって、SDGsの進捗を評価する国連のフォーラム「持続可能な開発のためのハイレベル政治フォーラム」(HLPF)に日本の市民社会の声を届けていきます。
地域間の連携	広がる貧困と格差、地域の持続可能性の喪失など、日本も「持続可能性」に関わる大きな問題に直面しています。SDGsを活用して「持続可能な地域」づくりに取り組む各地の市民社会と連携し、SDGs推進の輪を広げていきます。
SDGsを伝え・広げる	世界でも、日本でも、SDGsを知る人はまだまだ少ないのが現状です。より多くの人にSDGsを伝え、「つづく世界、つづく日本」を作る取り組みの大切さを伝えていきます。

■SDGs ジャパンの仕組み■

SDGsジャパンは、SDGsの達成のために、政策提言や行動、SDGsの啓発・普及、SDGsに取り組む民間企業や学界、国際機関、政府などとの連携の強化や提案・助言、SDGs達成のための調査研究などに取り組めます。

■事業ユニット制度：保健、教育、貧困・格差などの課題や、地域、コミュニティの問題などをテーマに、複数の団体で取り組む枠組みとして「事業ユニット」制度を用意しています。

■会員制度：NGO/NPO会員をはじめ、SDGsを推進する多くの団体が力を合わせて取り組めるように、幅広い会員制度を用意しています。



■SDGs ジャパンのお問合せ先■

一般社団法人 SDGs市民社会ネットワーク 事務局 (担当：関澤・稲場)

◎所在地：東京都台東区東上野 1-20-6 丸幸ビル3F (特活) アフリカ日本協議会 気付

◎電話：03-3834-6902、Fax：03-3834-6903、E-mail: office@sdgscampaign.net